

子どもの心に寄り添おう!



「お母さんは、子どもの手本」と話す小笠原先生。

社会福祉法人山路白鳩福祉会

理事 小笠原 美智恵さんにインタビュー!

子育てをする中で、子どもとの向き合い方や、どう注意していいか分からないと、悩んでいるお母さんもいるのでは?

今回のママネットでは、社会福祉法人山路白鳩福祉会の理事で、保育の経験50年以上の小笠原美智恵先生に子どもとママの心を育てる、アドバイスを伺いました。



能力を信じ、共に生きる 子育てハッピーアドバイス

●子どもと向き合う時、何を大切にしたいのでしょうか?

子どもの心に寄り添い、能力を信じることだと思いません。私たちが運営している施設の中で、なかなかおむつが取れない年中の子どもがいました。お母さんは諦めていました。そこで私たちは、おしっこが出るタイミングでトイレに一緒に行き、どこで失敗しているのか一緒に考える。そして失敗しても怒らない。何度も何度も

も、子どもと一緒に挑戦する。トレーニングをして半年後、その子どものおむつは取れました。何でできないのだろうと思う前に、お母さんは子どもがどこでつまづいているか、何が分からないのか理解していますか?

●子どもにどのよう
に注意したらいいか
分からない時があり
ます。

よく買い物をしていると欲しいものが買えず、だだをこね、泣きじやくる子どもを見かけます。お母さんは子どもに負けてしまい、その状況に我慢できず、買ってしまいうちともあるのでは?そんな場

子どもの能力は無敵大です。まず一緒に考え、一緒に悩み、心を添えてください。

合、買い物に行く前に約束させます。今回はこの予算しかないの、それ以上は難しいよと。約束をさせることです。約束を守らない時は、注意しなければいけません。小さな時から約束を守らせることです。

また、子どもの荷物持ちをするお母さんがいます。子どもはお母さんがいつも持つてくれると思いい、どんなこともやつてくれることが、当たり前になります。そうではなく、お母さんは、子どもが一人でできるようにするまで、やつてみせ、やらせる。そして、できたら誉めることを繰り返し行い、子どもの行動を手厚く見守ることでです。

そして叱るのではなく、論ず。頭ごなしに怒っても子どもの頭には入りません。怒る

●三つ子の魂百までというこわごわが、特に幼少期、気をつけることはありますか?

色々な体験をさせることです。特に自然との触れ合いで、子どもの五感は鍛えられます。自然と関わりと身体で覚えます。小さなことに感動でき、情緒も豊かになります。

また食べることも同じです。離乳食の時から多くの食材を使いましょう。玄米、五穀米、白米など様々なものを食べさせる。そうすると、食べ物の好き嫌いは少なくなります。口から全てを受け入れるようになります。自然に人嫌いな子どもには育ちません。五感全てで、色々な体験をさせ、子どもの可能性をもっともつと広げてほしいと思います。